

## 岐阜県地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（仮称） 策定の進捗状況について

令和2年6月26日に岐阜県地球温暖化対策実行計画懇談会を開催し、骨子素案に係る意見を聴取したところ、主な意見は以下のとおりでした。

### ○ 緩和と適応を合わせた計画であることが分かる名称への変更の検討

- ・ 各計画の法的根拠を整理し、変更の意図を明確にした上で検討。
- ・ 計画の意義を定めれば名称は自ずと決まる。
- ・ 温暖化はポピュラーであるが、気候変動は馴染みがないので名称に用いたらどうか。

### ○ 2030年度と2050年度の削減目標の検討(主に2050排出ゼロについて)

- ・ 2050年温室効果ガス排出実質ゼロについては、全員異論なし。
- ・ できるできないではなく、やるかやらないか。
- ・ 温暖化対策に苦しいなどのネガティブなイメージを持つ人が多いが、新しい技術を取り入れ、より豊かで快適な生活ができるようなポジティブな考えが必要。
- ・ 2050年目標の排出ゼロを目指す姿として示しても問題はない。

### ○ 緩和に係る取組、施策について

- ・ 産業部門の排出が多いので、商工政策とタイアップしてやっていくことが必要。
- ・ 多くの価値観を変えないといけませんが、コロナの影響によって考え方を換えやすい時期であるので、生活を見直す説明がしやすい。
- ・ 再生可能エネルギーには、バイオマス発電に関する言及も必要。
- ・ 排出量削減をどのように進めていくか、具体案の設計が必要。

### ○ 適応に係る取組、施策について

- ・ 気候変動による影響について、記載の追加が必要。
- ・ 炭素吸収源の観点からも、気候変動の影響によって、森林がどう変わっていくのか、今後分析していくことも必要。

### ○ 計画の進捗管理指標設定の検討

- ・ 指標を設定することとし、具体的には別途検討が必要。

## (参考)

令和元年度岐阜県環境審議会において「第5次岐阜県環境基本計画の主な取組みと課題」として整理した「今後の課題」に係る本骨子素案への反映状況

- 「2050年排出ゼロを目指した更なる取組み」や、「気候変動適応」への対応が必要
  - 2050年排出ゼロを目指した目標設定
  - 地域気候変動適応計画の策定
- また、気候変動への対応としては、自立・分散型のエネルギーの導入など防災と低炭素化の同時実現を図る取組みが必要。(環境施策を通じた防災・減災の強化)
  - 防災と低炭素化の同時実現を図る取組としての再生可能エネルギーの導入や水素エネルギーの活用
  - 台風や豪雨の影響の将来予測、洪水規模・頻度・浸水範囲の将来予測、BCPの策定など
- 県民1人あたりの年間電力消費量が増加している実態を踏まえ県民に行動を促す取組みの強化が必要。
  - 県民に行動を促す取組として、低炭素型の行動変容を促す情報発信を実施
- 再生可能エネルギー(地産地消型エネルギー)の導入やCEV、EV、PHVなどの次世代自動車への置換等のほか、環境イノベーションの創出等への環境整備が必要。
  - 再生可能エネルギーの最大限の導入や次世代自動車の普及
  - 革新的環境イノベーション戦略に基づく二酸化炭素排出削減技術導入の試算を実施
- すべての企業において、例えば契約時や購入時などにおいて更なるCO2削減の取組みが必要。
  - 事業者の排出削減計画書等を活用した仕組みの改善
  - 県庁における環境配慮に係る率先実行